

取り入れて 学びのエッセンス

生涯学習推進研修会Ⅰ・Ⅱ終わる

3月5日、26日の両日、野幌公民館を会場に「生涯学習」をテーマとした研修会が開催されました。

各分野で活躍している指導者、リーダー、委員のみならず、理解を深めてもらい、日頃の活動の幅をひろげてもらうと開催したのですが、

三回の講義に延べ一六〇名が参加し、メモを取りながら熱心に受講しました。

前半の講義は、ビデオを利用して行われました。登場する人たちの、自分にあつた生涯学習の実践を通して得た充実感に満ちた表情に感銘すると同時に、意を新たにされた方

も多かったようです。テーマ及び講師は以下のとおりです。

- Ⅰ①「生涯学習とは何か」 道立社会教育総合センター研修情報課長 秋山春雄氏、Ⅰ②「適切な指導・援助を行うために」 道立社会教育総合センター学習相談員 三浦力弥氏、Ⅱ「まちづくりと生涯学習」 北大高等教育機能開発総合センター助教授 木村純氏。

鷺田小彌太 「本の買い方、読み方、使い方」

自分をうち砕く本に出会おう

生涯学習講演会



先生の人気か、会場は超満員

真剣なまなざし、関心の高さがうかがえます。円内は秋山氏



さる3月22日(土)、市情報図書館において生涯学習講演会・現代作家シリーズ②として、哲学者、評論家として八面六臂の活躍をしている鷺田小彌太氏(55)を招き、「本の買い方、読み方、使い方」をテーマに講演会が開かれました。

鷺田氏は、現在札幌大学教授ですが、「昭和思想全史」「吉本隆明論」「思考の技術・発想のヒント」「大学教授になる方法」など多くの著作のほか、新聞、TVなどで幅広く評論活動を展開中の俊英です。

講演の内容は、読書家にとっ てきわめて魅力的であり、かつ有用なものでした。特に自分にとって「最恵国待遇著者」をもつことが大切で、その著者の全ての本を読むことの重要性を力説しておりました。

ちなみに、鷺田氏の場合、現代作家であれば谷沢永一、司馬遼太郎、長谷川慶太郎、大西巨人、吉本隆明、梅棹忠夫、開高健、立花隆、村上春樹が「最恵国待遇著者」であると

そのほか、「自分をうち砕く本」に出会うことの大切さ、「書くことを前提にした読む」ことの大切さ、あるいは「古典は読まなくともいい」など、氏独特の逆説的な論法をまじえながら、立て板に水、痛快な表現で自説を展開しておりました。

当日は、定員40人のところ、老若男女50人の方々が参集し、約1時間40分の講演に聴きいっておりました。

この現代作家シリーズは、市教委と情報図書館の共催で、昨年から開催しているもので、著者と読者の交流を目的に、道内在住の第一線作家を招いているもの。

日々楽しむ私の生涯学習



武藤由美子さん

週一回、午後二時、町内のご婦人達が明るい挨拶を交わしながら私の家のレッスン室に集まっています。メンバーは約三〇名。大変若くて颯爽と見えますが、六〇才以上が半数近くということに驚かされます。自治会のみならず、市の「江婦協まつり」に出演したことで味をしめ、秋の「市民合唱祭」に大胆にも続けて出演をしてしまったのです。

私がその指導を依頼されて早四年目を迎えました。初め三パートに分かれて歌う事が至難の業だったようですが、不協和音をかもし出したり、突然他のパートを歌っては、練習の最中でも皆を爆笑させたり、大変楽しい雰囲気が進みました。

それが少しづつコツを体得し、昨年の演奏会では団員の決意と努力で、ヨハン・シュトラウスの「美しく青きドナウ」を暗譜で披露いたしました。台所に立つ時も、道路を歩きながらも常に歌を口ずさみながら生活のリズムを作って過ごせた充実感を、反省会の乾杯の時に楽しく発表し合っていました。

心のハーモニー

はふくらんでいきます。団員の目は若々しく輝き、意欲的で情熱が伝わって私に感じられる時、生涯学習の楽しさを、このような形で味あわせていただいている私が幸せに思えて皆様に感謝している今日この頃です。今年もヨハン・シュトラウスの「春の声」にのってハーモニーを響かせます。

(向ヶ丘女声コーラス指導者)



異文化を体験(市中学生海外研修交流事業・米グレシャム市)



小林 一男さん

聚楽学園では、三月二一日閉講式が行われました。私は今から三年前、蒼樹大学で学ぶことになって、二年間を無

私の生き甲斐

一昨年十月に、食道に腫瘍がみつかり手術し、二ヵ月入院しました。ベッドの中で命の事、家族の事、仕事の事など考え、これまでの事、今の仕事につくまでの事等が思い出されました。

二七才で益子で陶芸を学び、二年後北海道に来てすぐには陶芸の仕事につけず、排管設備会社で八年間、土を掘ったり穴に入って管をつない

事過ごすことができました。多くの仲間と一緒に学習することは、もう数十年前の中学時代以来のことだったので、入学を許可されたときは、とても嬉しく青春時代が甦ったような感じでした。定例学習日には、きょうはどんな講義が聴かれるだろうかと考えながら家を出ました。会場に着くと、当番の方により講義の用意が出来ており、講義の前には全員で、校歌「蒼樹の丘」を歌

たりなど、小柄な私にとって は体力的に一番つらい仕事でした。ある時など、バキュームカーでくみ取り途中、ホースを止めるのを失敗し、身体中黄尿がかかり泣き笑いました。こともありました。



長畑 鎮さん

入院を機会に身体をいたわりたいたいと思いつつも、やはり仕事をするのが精神上もよく、年中休みなしに働き、作りたいものが頭にうかんでくるのである。

陶芸を仕事とするまでは何度も挫折や困難がありました。が、あきらめず、自分を励まし、いろんな方々の応援でここまでこれたのだと思っております。私にとっては、陶芸

老大に学んで

休憩した後、午後はそのコ

スに分かれて「趣味講座」を受けました。

学園に入って驚いたことは、もう設立されてから二〇年以

上も経っていること、また新谷二郎さんをはじめ、八五歳以上の方が二〇名も在籍して、元気で学習しておられることです。閉講式の席上でも、「高齢学習者」として、その旺盛な学習意欲を持ち続けておられることに対し、学園長から敬意を表されておりました。

学園では近いうちに「学園歌」を制定することが決まりました。私はこれから先輩の皆さんに負けな

で頑張りたいと思います。(聚楽学園生)

江別ぼけ老人を支える会

吉川 誠 一(事務局長)

平成元年三月『老人ぼけ』の正しい理解と、ぼけをみんな支えて行く世の中を作ることを目指し、『ぼけ老人』を介護している家族の方々に支援することを目的として設立された『江別ぼけ老人を支える会』は、年毎に会員数も増え、現在では三〇〇名を越えるまでに成長することができました。

事業活動としては、『相談事業』『研修事業』『介護者リフレッシュ事業』『広報事業』の四つを中心としております。

相談事業は、平成七年六月より電話相談を、毎週水・木の二日間午前十時～午後三時まで三八七―五六五七で行っておりますので是非ご利用下さい。研修事業は、講演会・研

修会・施設見学などを、広く一般市民も対象にして、老人ぼけに対する正しい知識の啓蒙を図っております。介護者リフレッシュ事業として介護家族の集いを開催し、介護者の精神的な支えになるようにとの願いを込めて取り組んでおります。広報事業として、

『広報かけし』を年四回発行し、情報の提供と会のPRを

☆ 支えあう社会を目指す ☆

図っております。

この四つの自主事業のほかに、昨年一二月にオープンした『グループホームひまわり』の回想療法に対する協力を毎週一回行っております。グループホー

ムとは『痴呆性老人』の『自由と安らぎと憩いの場』としての新しい形の施設(家)です。活動の中心メンバーは、平成六・七年度の相談員養成講座を受講した四〇代から七〇代

までの主婦ですが、ボランティアとして積極的な活動をしております。

〈事務局〉(水・木のみ) いきいきセンター内 ☎387-5657



介護者も一息いれて、楽しいひととき

伝統を超えたアイヌ文化

～“モシリ”パフォーマンス終了～

今年度の「生涯学習フェスティバルえべつ」が、11月17日(日)のアイヌ詞曲舞踊団“モシリ”パフォーマンスをもって終了しました。

会場の市民会館には700人を超す観客が集り、舞台での神秘的かつ芸術的な“うたとおどり”に魅了されました。現代的なシンセサイザー、アイヌの伝統楽器ムックリ(口琴)と心洗われるような歌声が醸したす調べ。自然の力強さと優しさをあわせもったような舞い。曲はすべてアイヌ語でうたわれましたが、彼らのメッセージはたしかにわれわれの心に届いたはず

です。公演終了後には、出演者に握手を求め人やビデオ・CDを買って求める人が見受けられ、すっかりファンになったようでした。



ボーカル、シノッチャキ・房恵さん

会費徴収は慎重に

総務小委員会検討事項報告

平成7年3月の設立以来、本協議会の重要な検討課題の一つである「会費の徴収問題」などについて、昨年11月に設置の総務小委員会における検討が終わり、本年2月開催の

第二回総務委員会に報告、協議の結果承認されました。

総務小委員会は、総務委員会から検討を付託された「会員の資格問題」・「監事の職務規定」・「会費の徴収問題」の三点につき、二回の会議に加え、

アンケートを反映

アンケート調査を実施するなど、慎重な作業を行ってきました。

結果、最も重要な「会費の徴収問題」については、①徴収時期は、いましばらく後年

なお、ご苦労いただいた小委員会委員は、関根正一、山田義弘、稲毛明夫、後藤英雄の四氏です。

静けき河の岸辺

劇団「川」記念公演

さる3月1・2日の両日、市民会館大ホールで市内のアマチュア劇団「川」の第40回記念公演が行われました。当協議会も後援の名のもとに参加しましたので、以下簡単に報告いたします。



市民参加による手づくりの舞台

演目は「静けき河の岸辺」(作・春日基)。ストーリーは、戦後、賀川豊彦や西村久蔵らが中心となり、江別太、東野幌などを含む幌向原野3千haに建設しようとした理想郷キリスト村とともに生きた1人の女性を主人公とした物語です。

キリスト村とは、祈りと農耕を理想としたもので、具体的には農村の中心に教会があり、周辺に学校、図書館、病院、店、加工工場、農機具工場などを備えようとしたものです。

結局、キリスト村の建設は幻におわりましたが、主人公の田岡夫妻やそれを取りまく人びとの、日々の営みのくさぐさに、“乳と密の流るる理想郷”が現われていたといっただいでしょう。

公演(2日=2公演)には約千人の市民がかけつけました。



旧町村農場

私の宝物
家族になったマック。
松下 邦子

我家で、ミニウサギが家族の一員として暮らし始めて、早一年八ヶ月が過ぎ去ろうとしています。当時は、母親の温もりも十分に与えられる間もなく店頭に出されたのではないでしょう。か。一日中、私のそばから離れようとはせず、ひざの上でよく寝ていたものです。



や野菜が食べたくなると、エサ箱の前に行って、「ないよ」というしぐさをします。トイレに行きたくなると、落ち着きがなく私のまわりを飛び回

たような気がしています。家族も、「マックおはよう」で始まり「マックおやすみ」で終わる毎日です。マックを通じて、あいさつの重要さや弱い者を皆で守りながら育てることが、今求められているのではないのでしょうか。家族が協力をして育てることの難しさと、弱い者をいたわり守っていく優しさとを子供達に教えることができることに感謝しております。

それが今では、声を出せないことを克服するように、様々な態度で要求をしてくるのです。大好きなクッキー

り、それでも私が気が付かないと、早く気付いてほしいと言っているようなしぐさをします。今、私は子供がひとり増え

それとともに、私もマックを通して子供達や家族に多くのことを教えられるが、日々過ごしております。(大麻新町在住)

『牛づくりの先駆者』といわれる故町村敬貴氏によって昭和三年、対雁に開設された農場を当初に近い姿に復元、整備し、昨年オープンしたのがこの「旧町村農場」です。当時を再現した応接室と酪農の歴史にまつわる資料を展示している旧町村邸、建築史上でも貴重とされる第一牛舎、古いレンガ造りのたたずまいでバターづくりの道具を展示した製酪室は一見の価値あり。開館期間は、4月29日から

11月23日までで、原則無休です。どこか懐かしい牧歌的な景観を楽しみながら、酪農にかけた敬貴氏の熱き魂に触れてみてはいかがでしょうか。

〈所在地〉
いずみ野25
〈連絡先〉
市教委社会教育課
☎381-1060
※入場料 無料



会員の募集

江別市生涯学習推進協議会では、加入団体を募集しております。フェスティバルや講座・講演会など、多くの人への学習機会の提供を中心に活動しています。日頃、生涯学習を实践している皆様と手を携えて、発展を目指したいと考えますので、お気軽に事務局へお問い合わせください。

〈事務局〉市教委生涯学習担当
☎381-1062

メンバー募集

〈惣岳流大麻清溪会〉
詩吟に親しんでみませんか。大麻公民館で、土曜日の午後お稽古をしています。日吟連の深野惣清先生(女性)が初心者から熱心に指導して下さいます。月謝・会費ともで3,000円です。お問い合わせは木下さん☎386-3414までどうぞ。

〈江別泰寿会〉
私共のモットーは「元気で踊れる事は幸せ」です。無理なく体を動かすことは骨を強くすると聞きます。新舞踊、民謡、日本舞踊を通し楽しい仲間になりませんか。詳細は岡部さん☎383-0796までどうぞ。

いききた教材 団体活動のいろいろ

「生きること 学ぶこと」協議会編の発行

ガイドブックNo2



市民各層の生涯学習の資料集として「生きること 学ぶこと」江別市生涯学習ガイドブックNo.2「推進協議会編」を三月末発刊しました。

昨年、市教委で発刊した事業・指導者編の続編として協議会が発刊するものです。主な内容は、①生涯学習と協議会を解説したガイダンス、②八年度までの事業アルバム、③会員の紹介、の三つです。その中でも中心となる会員の紹介は、現在の会員数七九団体のうち、原稿をいただいた六七団体を写真入りで掲載しています。いきいきとした活動の様子が読み取れるだけでなく、各団体がそれぞれにメンバー募集や行事のPRをしております、学習を始めるための手引書としても利用できるものとなっております。

り、知名度アップをはかり、新規加入の促進など会の運営を充実させることもねらいのひとつですが、実践例としての会員団体の活動内容は生涯学習への理解を深めるための格好の生きた資料です。

ガイドブックは、会員をはじめ、自治会、公共施設利用団体に配布するほか、公民館等で希望者に無料配布する予定です。ぜひ、お手に取りください。

編集後記

早いもので、協議会も三年目を迎えました。まだ、三年目です。よく、二〇周年、三〇周年記念〇〇〇というのがありますが、その歴史の重みや価値を思い知らされます。われわれも、後に誇れるような歴史を築いていこうではありませんか。